

間近に日本舞踊を楽しむ、金曜の夜

熟練の、そして若手の日本舞踊家たちが開く「サロン公演」



Akasaka Nihon-buyoh on Friday



# 金曜赤坂座

日本舞踊ダンサーズネットワーク 定期公演 2018

於：赤坂 黛アートサロン 開場：18:45 開演：19:00 ※当日は18時から整理券を配布いたします

一般 2,500円、学割 1,500円 (全席自由)

※お得な通し券もございます (全6回一般 10,000円、学割 5,000円)

ナビゲーター 葛西 聖司、岡田 嘉夫

照明 北寄崎 嵩 舞台監督・音響 清水 美輝

チケットのお申込み・お問合せ

日本舞踊ダンサーズネットワーク (NDnet) Tel/Fax 03-6479-3235

または NDnet 会員に直接お問合せください。ご予約いただいたチケットは、当日会場にてお渡しいたします。

# 年間スケジュール

番組は変更となる場合もございますのでご了承ください。 このご案内は 2017 年 1 月に製作されたものです。

## 春の会

### 3月9日(金)

＜吉原三題＞

清元 北州

花柳 錦翠美

北州とは、江戸城の北にあった新吉原遊郭をさす言葉です。吉原の年中行事や四季の風物を織り交ぜながら、遊女から馬子まで廓に出入りするさまざまな職業の人物を語り分けていきます。「梅の春」とともに清元の御祝儀物の双璧として重く扱われています。

常磐津 廓八景

旭 七彦

吉原の風物を近江八景になぞらえた御祝儀曲で、当時の吉原の風俗が描かれています。花船道中、吉原の大門や仲の町などの風景、後半に吉原（吉原田雨）に集まる客を虫にたとえるなど男女のやりとりも興味深く描かれています。

長唄 助六

泉 徳右衛門

江戸で一番の豪華な遊廓吉原で、夜桜をめぐる男伊達の踊りです。歌舞伎十八番の『助六』の真髓を舞踊にしたもので、荒事のりりしい気品と和事の柔らかな中で落ち着いた形的美しさが楽しめます。

創作 風海地山 (ふうかいちざん)

畑 聡

(振付：畑 聡)

自然が織りなす有形無形の景色の中に、ある時は調和し、ある時は拮抗して生まれる不変の生命力…

### 4月13日(金)

清元 梅の春

花柳 珠絃

清元「北州」とならんで、御祝儀曲の名曲と言われています。隅田川周辺の自然の風景が中心で、人物描写とは違い初春の山谷堀から橋場、今戸、庵崎から鐘ヶ淵などの地名が読み込まれていて、曲調も変化があり、粋な風情が巧みに写されています。

長唄 田舎巫女

花柳 智寿彦

巫女は本来神に仕えて神楽を奏でる人を言いますが、神の弓を弦で叩いて神おろしをしたり、亡き人の口寄せをして、羅織（かまどばらい）の舞を舞って家々を廻る者も巫女又は神巫女と言いました。白い仕丁を着て、鈴や扇、又は神の杖を持って出ておかめの面をかぶり軽妙なおかしみが踊られます。

長唄 俄獅子

若見匠 祐助

『俄獅子』は吉原の年中行事として、芸者が芸を披露する俄（二和加）の催しの出し物として作られました。歌詞は『相生獅子』をもじっており、吉原の年中行事、廓情緒、それに獅子の狂いが入った踊りです。

俚奏楽 寿吉原俄

泉 裕紀

(振付：二代目泉徳右衛門)

昭和になって作られた曲です。江戸吉原の遊廓で行われた即興芝居を吉原俄と言いますが、毎年八月中旬から九月中旬まで街頭の屋台の上で幫間（ほうかん）や芸者などが演じました。その吉原俄にヒントを得たと思われる。おめでたい江戸の風情を古典的、情緒的な曲で踊られます。

### 6月8日(金)

＜八島三題＞

荻江 八島

藤間 章吾

地唄の『八島』からそのまま写して荻江節にしてあります。内容も地唄と同じで、西国行脚の旅の僧が四国の八島（屋島）の浦で一泊をとったおり、義経の亡霊が現れ壇の浦合戦の物語を聞きますが、夜明けとともに義経の姿は消え失せてしまいます。

長唄 八島官女

林 千永

かつては平家の官女が今は浜で魚を売る海女となっています。その海女としての姿から、宮廷の栄華の頃、軽快な俗謡に乗せての踊り、最後は八島の合戦と様々な姿を見せます。部分的には謡曲『八島』の歌詞がそのまま取り入れられています。

地唄 八島

葛 夕カ女

謡曲の『八島』の後半を地唄に作曲したものです。地唄舞という女性が男性への恋心や恨み言を述べるしっとりとした作品が多いのですが、修羅物の舞として特徴があります。西国行脚の旅の僧が四国の八島（屋島）の浦で一泊をとったおり、義経の亡霊が現れ壇の浦合戦の物語を聞きますが、夜明けとともに義経の姿は消え失せてしまいます。

## 秋の会

### 10月12日(金)

長唄 雨の四季

西川 扇重郎

四季それぞれの雨の風情が唄われています。臘夜の春の雨から始まり、緑日の風景。夏は山王祭と神田祭にわか雨が、そして橋づくし。秋は後藤一族の屋敷にしっとりとした雨が降り、木更津へ往復する船が見え隠れ。冬は朝早く旅立つ旅人、その旅人や橋桁に冬の寒い雨が降ってきます。

地唄 茶音頭

葛 夕カ女

茶の湯の道具や、茶処に重ね合わせて、男女の仲をしとやかに気品のある表現になっています。舞の中には茶の湯の作法も上手に取り入れられています。内容は、花の吉野と紅葉の竜田の春秋の名所が舞われ、その後色里の島原の世界を茶の湯の言葉にかけ、気品高く艶やかに描かれています。

地唄 鉄輪

旭 七彦

(振付：旭 七彦)

捨てられた夫への嫉妬の一念で、その夫を取り殺そうと丑の刻参りをする踊りです。前半は夫に見捨てられた悲しみ、後半は嫉妬に狂い鬼となり凄惨な後妻（うわなり）打ちに出かけますが、弊弊（へいはく）に隔てられ去って行きます。

### 11月16日(金)

創作 ゆれる～浮舟

花柳 衛菊

(振付：花柳 衛菊)

波に漂う一艘の小舟。ゆらゆらゆれる女の心のように。わたしはどうしたらよいものか。源氏物語に出て来る女性、浮舟を表現する言葉、「たゆたふ」からヒントを得た作品です。

荻江 鐘の岬

花柳 奈千穂

『娘道成寺』の歌詞、へ鐘に恨みは数々ござる…から始まり、へ悪いそめたが嫌じゃえ…までが踊られます。初めは鐘への恨みを捨てて、静かな心であるがまの月を眺めるという心境でゆっくりと舞います。へ言わず語らぬわが心…から親しみやすい雰囲気、女心の変化を語り、移り気な男心を責め、へ都育ちは蓮葉なものじゃえ…で、遊女の恋愛と比べて踊ります。

清元 鳥刺し

若見匠 祐助

本来は歌舞伎の劇中で踊られた曲で、酒席を賑やかにする鳥刺舞を演じた舞踊ですが、後に独立して踊られるようになりました。鳥刺とは江戸時代、羊の先にトリモチをつけ、小鳥をさして（捕らえて）売るのを生業としていた職人のことです。前半が鳥刺、後半が幫間の振りになっています。

### 12月21日(金)

長唄 まかしよ

花柳 智寿彦

寒中に江戸市中を、御行と言って白衣を着て子ども達に「まかしよまかしよ」と囃されて、お札をまき散らしながら金銭をもらって歩いた願人坊主の姿を舞踊化した風俗舞踊です。全体にテンポが速く、内容はふざけたものですが、江戸後期の退廃的な気分を味わうことができます。「まかしよ」とは「撒いておくれ」という意味です。

長唄 水仙丹前

花柳 錦翠美

へ水仙の花の姿や若衆振…。の唄い出しからこの曲名がつけられました。特にまとまった筋はなく、美しい色若衆の風情を踊るものです。江戸初期、神田・堀丹後守の邸前に湯女（ゆな）をおいた風呂屋があり、そこに通う奇抜な恰好をした伊達男を丹前者と呼んでいました。この丹前者の歩く姿や身振りが様式化され舞踊に取り入れられたのが「丹前振り」で、「水仙丹前」でも色若衆の姿で丹前振りを見せます。

長唄 桜絵巻

花柳 珠絃・花柳 衛菊

(振付：花柳 衛菊)

昭和40年にできた曲で『雪月花』のうちの一つです。花のきぬ 花いくさ 花のとも 朱桜 雲井さくら…次々に桜にまつわる歌詞がでてくる春爛漫の様子を描いた明るい曲です。二人の女性が春を愛でて踊ります。

## 夏の会

## 冬の会



NDnet  
Nihon-burlesque Dancers network

金曜赤坂座を主宰する日本舞踊ダンサーズネットワークは、



旭七彦 あさひ ななひこ

旭流家元。振付家、演出家。文化庁芸術祭賞受賞。慶応義塾大学卒業。朝日カルチャーセンター講師。旭七彦乃会、玉光会等主宰。国際交流基金の海外公演にも多数参加。日本民俗芸能協会理事。



葛タカ女 かつら たかじよ

地唄舞踊流家元。早稲田大学文学部卒業。4才で藤間流入門。立教女学院在学中名取。女優として多くの舞台に出演。その後、地唄舞神崎流入門。師範。2001年葛流創流。舞踊批評家協会賞受賞。国際交流基金等、海外公演多数。舞台芸術学院、都立忍岡高校、NHK文化センター等の講師、日本民俗芸能協会理事。



畑聡 はた さとし

10才で舞踊集団菊の会創立者・畑道代(初代尾上菊乃里)に師事。菊の会の活動に伴い、世界延べ62ヶ国での海外公演に参加。黒澤明監督、映画「夢」の振付助手、及び出演。日本演劇協会会員、日本民俗芸能協会監事。舞踊集団菊の会・代表。二代目尾上菊乃里



花柳錦翠美 はなやぎ きんすいみ

「翠の会」主宰。獨協大学外国語学部ドイツ語科卒業。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。デュオダンスフェスティバル「インターナショナルイン・ソウル」参加。映画「さくらん」 「BALLAD」 「喰女」 「無限の住人」、ドラマ「味のちもんめ」 「MOZU」、CM「日野自動車」 「au」等々の所作指導・振付を手掛けている。



花柳奈千穂 はなやぎ なちほ

若手タレント、新人舞踊家の指導育成、放送関係出演、イベント振付指導等、日本舞踊活動歴47年。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回、会長賞受賞。東京新聞社、舞踊雑誌社主催舞踊大会、大会賞受賞3回、最優秀賞・特別賞受賞。



若見匠祐助 わかみしょうゆうすけ

母・若見匠風徳、猶若古代に師事。日本大学芸術学部大学院卒業。邦楽と舞踊社主催舞踊大会第1位、日本舞踊社主催みそみ会にて、優秀賞受賞、東京新聞社主催全国舞踊コンクールにて文部科学大臣奨励賞受賞他、数々の舞踊コンクールで優勝。



泉徳右衛門 いずみ とくえもん

泉流二代目宗家。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会特別賞、日本舞踊協会花柳壽徳賞新人賞、文化庁芸術祭優秀賞、松尾芸能新人賞、舞踊批評家協会新人賞を受賞。泉流宗家としての活動の他、桜美林大学 非常勤講師を務める。自身の会として「徳右衛門リサイタル」を主催。



五條詠絹 ごじょう えいさぬ

東京藝術大学舞踊専攻修士課程修了。東京新聞主催全国舞踊コンクール邦舞第一部にて第1位。文部科学大臣奨励賞、東京都知事賞、みやこ賞を受賞。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。



花柳伊三郎 はなやぎ いさぶろう

1954年神戸市生まれ。幼少より実父・花柳五三郎に師事。2003年から米国ワシントン桜祭より招聘を受け、海外公演を継続中。2008,09年には米国Swarthmore 大学より特別客員教授の称号を得る。現在、玉川大学芸術学部教授。



花柳珠結 はなやぎ たまいと

文化庁芸術祭賞受賞。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。数々の海外フェスティバル公演に参加。子供による日本舞踊集団「未来座」のプロデュース、振付。「珠いと会」主宰、「たまゆの会」共宰。区内の小中学校にて伝統文化普及の授業実施。



林千永 はやし ちえ

東京藝術大学音楽学部三味線専攻卒業。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞、芸術選奨文部大臣新人賞、文化庁芸術祭賞を受賞。国際交流基金の海外公演にも多数参加。踊り手としての活動の一方、振付家として舞踊、演劇、オペラなども手がけている。日本民俗芸能協会理事。林流千永派家元。



泉裕紀 いずみ ゆうき

6才より泉徳右衛門、泉津英に師事。文化庁芸術祭賞、日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞受賞。富士市文化奨励賞受賞。エディンバラ、アヴィニオン演劇祭公演に参加。おどり集団「DAN」の振付、プロデュース。「ゆうきの会」主宰、「たまゆの会」共宰。



西川扇重郎 にしかわ せんじろう

日本大学芸術学部演劇学卒業後、西川流宗家西川扇藏の内弟子に入る。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞3回・会長賞、舞踊批評家協会新人賞などを受賞。日本舞踊振興財団の海外公演に数多く参加。日本舞踊協会 新作公演「道成寺」振付補。「扇重郎会」主宰。



花柳衛菊 はなやぎ えぎく

創作を中心に内外で活動。毎年国内公演や仏アヴィニオン等の国際演劇祭参加公演など、2017年自主リサイタル計58回目。世界13都市で招待公演。2017年東アフリカフェスティバルも作品招待。埼玉大学、実践女子大学等で出前授業実施。文化庁芸術祭賞、文部大臣奨励賞2回、田中良賞、武智鉄二賞他受賞。日本民俗芸能協会理事、エグクJP代表。



花柳智寿彦 はなやぎ ちずひこ

幼少より母・花柳万寿彦に入門。早稲田大学第一文学部を卒業後は、人間国宝・花柳寿南海に師事。古典だけでなく創作活動にも励む。日本舞踊協会各流派合同新春舞踊大会にて大会賞・最優秀賞受賞。「さくや会」主宰。よみうり日本テレビ文化センター講師。



藤間章吾 ふじま しょうご

藤間流勲右衛門派師範、「勝豊会」主宰。幼少より母・藤間章豊に、後に藤間秀喜に師事。「弧の会」同人として舞踊批評家協会新人賞、文化庁芸術祭優秀賞受賞。玉川大学文学部芸術学演劇専攻卒業。劇団俳優座演劇研究所講師。朝日カルチャーセンター講師。

■ 日本舞踊ダンサーズネットワーク代表

北寄崎 嵩 きたきざき たかし

舞台照明家。駒沢大学卒業。1978年より国立劇場にて歌舞伎、文楽、日本舞踊の照明に従事。2003年国立劇場を退職。(株)北寄崎に入社、様々な分野の照明デザインに取り組む。1989年第9回日本照明家協会賞大賞受賞。文部大臣奨励賞受賞。日本照明家協会編「日本舞踊の照明」を編集。

■ 日本舞踊ダンサーズネットワーク副代表

清水美輝 しみず よしてる

洋舞(バレエ・モダンダンス・児童舞踊)や邦舞(日本舞踊・民俗芸能の舞台公演・新舞踊)など、幅広く、数々の舞台監督や音響を手がける。日本民俗芸能協会理事。

観客ナビゲーター

公演をご覧いただく皆様へ、演目の世界観や背景などについてもより深くお楽しみいただくための「案内人」を右のご両名にお願いしています。



葛西聖司 かいせい せいじ

東京都生まれ。中央大学法学部卒業。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオのさまざまな番組を担当。現在はその経験を生かし、歌舞伎など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化についてのセミナーを全国で展開。「僕らの歌舞伎」「文楽のツボ」など著書多数。



岡田嘉夫 おかだ よしお

1937年神戸市生まれ。画家。源氏物語を題材にした小説の挿絵のほか、田辺聖子氏をはじめとする、作家との共著による現代的な絵巻子を多く手がける。近年では「歌舞伎絵」の創作に力を注ぐ一方、古典文化の発展にも力を尽くしている。

DESIGN SERIES

公益社団法人  
日本照明家協会編

# 『日本舞踊の照明』

近年、協会内外から、「日本舞踊の照明」についての解説書、資料が欲しいとの声が多く寄せられています。これを機に、『日本照明家協会雑誌』1994年3月号から2009年5月まで15年間、78回にわたって掲載された「日本舞踊の照明」から照明変化を伴う53作品を選び、日本舞踊への理解を深めるために、多面的な解説を加えて1冊の本にまとめました。

照明家だけでなく、舞踊家を始め日本舞踊に携わる全ての方々のお役に立てる実用書。

目次	
序文 四世 花柳壽輔	5
日本舞踊の美 丸茂祐佳	6
日本舞踊略史 古井戸秀夫	8
近代の日本舞踊とテクノロジー 神山彰	10
日本舞踊照明致 北寄崎嵩	12
日本舞踊の流派 城後一朗	14
日本舞踊の種類 小林直弥	16
日本舞踊の柝 増田一雄	18
日本舞踊の伴奏音楽 丸茂祐佳	20
日本舞踊の照明について	38
仕込み図	40
作品目次	41
用語解説	211
日本舞踊の照明関係書籍	214
執筆者一覧・写真・図版	215



新刊  
発売中!

照明	
舞臺衣装	『秋の色草』『舟の四季』『江戸生島』『春秋』『物しむ春』『菊』『菊歌集』『津の帆』『蘭鏡』『五月雨』『福の字襷』『雲月花』『夷舞さんぽ』『宇智子』『権記』『二人舟久』『蘭鏡』『朝顔』『舞妓』『紅葉』『百千鳥』
舞元	『かきね』『梅川』『藤島』『岡田川』『玉葉』『晴まつり』『津山の舟』『舞の万才』『おゆき』『舟久』『舞名』『夕立』
舞	『お舞狂言』『雷鼓』『独楽』『扇の舞』『折門』『冥橋』
作	『舞の流行』『日輪川』『梅のあじ』
品	『舞動山』
大和楽	『あやめ』『河』『たけくらべ』『雷折竹』『舞季の花』『舞の囃』『うぐいす』『花政書』『江戸風流』

ご購入は  
日本照明家協会ホームページ  
(<http://www.jaled.or.jp/>)  
よりお申し込みください。

お問い合わせ先  
公益社団法人 日本照明家協会 (本部事務局)  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸術花伝舎3F  
TEL: 03-5323-0201 FAX: 03-5323-0205 E-MAIL: jaled@jaled.or.jp

種別 体裁: A4版、オールカラー編集、マット紙216頁  
発行: 公益社団法人日本照明家協会  
制作: 日本照明家協会 出版委員会  
協力: 公益社団法人日本舞踊協会  
定価: 4,000円 (消費税別価格あり)

# ★ 金曜赤坂座

## 赤坂 黛アートサロン

東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F Tel.03-3583-3633

開場:18:45 開演:19:00 ※当日は18時から整理券を配布いたします。

一般 2,500円、学割 1,500円 (全席自由)

※お得な通し券もございます (全6回一般 10,000円、学割 5,000円)

チケットのお申込み・お問合せ  
日本舞踊ダンサーズネットワーク (NDnet)

Tel/Fax  
**03-6479-3235**

または NDnet 会員に直接お問合せください。チケットは当日会場にてお渡しいたします。

